

群馬県 グループホームさいか(A-ユニット)地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念そのものの訂正は行っていないが、日頃の関わりの中でその人らしく暮らし続けることの大切さは訴えている。	○	お盆時期におはぎを作り、近隣住民宅へ利用者さまと配ったり、ぞうきんを小学校に寄付するなどを行っているが、更に地域との交流が図れるようなイベント等を考えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室や食堂など、目につく所に理念を掲示するとともに、日々の教育を理念に沿ったケアが提供できる方向で行っている。	○	職員の入れ替えが早く、なかなか理念を理解しそれを実践するまでに至らないが、根気強く職員教育を続けていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議にて、地域への理解を求めているがなかなか良い反応が得られていない。	○	認知症についての勉強会を実施したり、運営推進会議を通して継続して働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	現在、玄関を施錠してしまっているため、気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気ではない。しかし、入居者の所属していた婦人会や、同級生などの受入は、快く行っている。また、散歩中のご近所の方には、こちらから挨拶を行うよう心がけている。	○	玄関の解錠に向けての職員教育を行っているが、現在ではまだその段階に達していない。近隣の方が気軽に立ち寄って頂けるよう、継続して職員教育を行ってきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費を納めるなどして、地域への参加を試みている。	○	以前は、ゴミ収集所の清掃などを行っていたが、現在の入居者の状況、職員の能力を考えるとなかなか実施できない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ、特に話し合いなどは行っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年の評価を参考に、改善に向けて取り組んでいる。	○	職員の入れ替わりや立地条件などで、なかなか改善できない項目もある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を催しても、なかなか参加を含めた協力が得られない。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に取り組んでいない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は必要に応じて成年後見制度の利用をご家族やご本人に進言している。職員への教育は、特別には実施していない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、研修等とおして虐待防止関連法について学ぶ機会を設けているが、職員は特に研修などは行っていない。		職員に対しては、法的にどうこうではなく、職業倫理として職員相互が自然に観察しあい、虐待が行われないようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特別な取り組みは行われていない。	○ 目安箱の設置など、日常的に意見を聞き入れられるようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月毎に、ホーム便りを発行しており、その中にご家族に宛てて、一人ひとり様子を記入している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	6ヶ月毎にご家族にアンケートを実施し、ご家族の要望が反映できるように心がけている。	○ 目安箱の設置など、日常的に意見を聞き入れられるようにしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の業務連絡時を基本に、1ヶ月毎に会議を行い、職員の意見や提案を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	実施している。	○ 事故報告やヒヤリハットを分析し、事故の起きやすい時間帯が把握できているので、その時間に手厚い職員配置ができるか検討している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	努力や配慮は常に行っているが、どうにもならない状況。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>独自に職員教育の方針を決め、実施しているが、職員の入れ替わりが激しいため全員に実施できない状況。現在は、1ヶ月毎の処遇会議を通し、職員教育を行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地元の社会福祉協議会の実施する認知症の勉強会に出席したり、訪問介護員の講習の講師派遣などを行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月例会議を通し、現場のニーズを把握している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得に対して、勤務を優遇したり、表彰制度を設けて、資質及び意欲が向上するよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、ご家族や担当ケアマネなどから事前情報を頂く様にし、面接を通して信頼関係が構築できるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>担当ケアマネや個家族自身との面接を通して、信頼関係が構築できるように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接から得られた情報を基に、大枠の処遇計画を立てて、対応するように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に取り組んでいない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の能力を活かして、生活の再構築が出来る方向での処遇計画を立案し、実行している。	○	実施状況が希薄だったり、職員によつての差が大きいため、職員全員が同じ気持ちで関わられるように努めていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を出来るだけこまめに伝え、処遇や外出への協力を得られるように努めている。	○	現状以上にご家族が関われる場面が増やせるように努めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間を定めず、いつでも面会に来られるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から、ご本人が所属していた婦人会等の友人の面会をしていただけるよう、働きかけを行っていただいている。また、入居前の住居を訪れるなどしている。	○	入居前に住んでいた住居への訪問は、まだ1名しか実施できていないが、ニードの把握を行いながら、対象者を広げていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂の座席位置などをはじめ、利用者同士の関係に注意を払っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先の病院へお見舞いに行ったり、ご家族からの相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を感じ取り、実行する事を基本姿勢としている。	○	職員全員が、ご本人の意向を聞いたり、感じ取ったりする能力が有るわけではないので、引き続き職員教育をおこなっていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されて意向も、ご家族からの情報収集を行い、処遇に取り入れるようと止めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	処遇計画を通し、それらをアセスメント出来るようにしてる。また、日々の変化を記録に残すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、事前に計画書を作成し、それを基に処遇会議を実施。その際に他の職員の意見が反映されるようにしている。	○	ご家族は「おまかせします」という方が殆どなので、ご家族に処遇会議に参加していただけるよう、働きかけていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本の見直し期間は3ヶ月としている。排泄方法の変化などは、その都度検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に「小見出し」を付け、後からでも情報を整理しやすくするなどの工夫を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している			
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリテーションが必要な方には、介護老人保健施設への入居を支援するなど、適正なサービスが利用できるよう努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在の所では、特にその必要性を感じる対象者がいない為、実施していない。	○	必要なケースが発生した場合には、協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ、入居される前からの医師の診察が受けられるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>入居前に、通院していた病院を利用できるよう努めており、看護職員との繋がりも大切にしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した病院のソーシャルワーカーを中心に、早期に退院できるよう努めている。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の時点から、重度化や終末期の方針について、話し合いを持つよう心がけている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>主治医らと連携し、必要な受診を含めた援助を提供できるよう努めている。また、ご家族にも主治医からの情報を提供し、状況の共有を図るよう努めている。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご本人の状態に応じて、入居の理由等を打ち合わせ、言語統一するようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の誇りやプライバシーを侵害しないよう、随時職員に指導している。	○ 入職時の職員教育としても、プライバシーや尊厳についての指導を行っているが、今後もその大切さを伝えていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の発言内容を生活記録に残すなど、ご本人の発言を重要視している。	○ 記録を基に、その内容からご本人の訴えたいこと、やりたいことを見出したり、ご本人に伝わりやすい方法を見出せる指導を行っていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間やご本人の体力などを考慮し、個別に対応するよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人が希望する美容院へ行けるよう配慮している。	○ 身だしなみへの配慮は心がけているが、行き届かない面も有るため、徹底されるよう努めていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	恒常的ではないが、摂取状況に応じ、ご本人の嗜好を取り入れた別メニューで対応したり、水分摂取が困難な方には、ゼリーを作って対応している。食事の準備や片付けは、処遇の一環として、ご利用者に参加していただいている。	○ 現行、食事の準備などの作業に関わっていないご利用者でも、実施可能な作業を見つけられるよう、作業を細分化して検討を加えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族の許可が有れば、喫煙していただいている。アルコール類については、ノンアルコールビールなどを含め、雰囲気だけでも楽しんでいただけるよう努めている。	○ 現行、アルコール類の摂取は、イベント時のみ程度なため、日常的に楽しめるような配慮をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	生活記録などを基に、出来るだけおむつに頼らない排泄が行えるよう努めている。また、おむつ類を使用する際は、必ずご家族にご本人の様子を伝え、了解を頂いてから実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前は、夜間や朝風呂も実施していたが、夜間は特に、職員の体制や入浴拒否に繋がる場面が多かったため、現在は午後に実施している。入浴日は毎日行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠状況や、体調の変化などを把握し、適切な休息が確保できるよう努めたり、不眠の場合は添い寝をするなどして、安心して入眠できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いのある生活を送っていただくことが、グループホームを“居場所”として感じ取っていただくためには必須と考え、出来るだけ張り合いや喜びのある日々を過ごしていただけるよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、金銭管理を行っている方もいらっしゃる。また、一緒に買い物などに出かけ、お金を使える場面をもうけるよう努めている。	○	買い物の外出は、ごく一部のご利用者にはしか実施出来ないため、拡充がはかれるようにしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前は毎日散歩に出かけていたが、ADLの低下したご利用者が増えたり、職員の能力不足から、なかなか散歩には出かけられなくなった。その分、中庭などで洗濯物を干したり、土いじりの場面を設け、出来るだけ戸外にでられるよう努めている。	○	以前のように、毎日散歩に出かけ、四季の変化を感じて頂いたり、ADLが良好なご利用者が、車椅子の方を介助するなど、ご利用者同士の交流を深める場面に繋がるよう、支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居前に住んでいらした所へ一緒に出かけたり、リフト車両が必要な場合は、施設の車両の貸し出しを行うなどの支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節ごとの挨拶の手紙や、ご家族に宛てた手紙を施設便りと一緒に郵送するなどの支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人等には、ご家族を通してホームに入居されていることを伝えていただき、面会は自由である旨を説明していただくようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	飛び出し事故を受け、玄関及び居室の窓などの施錠を行っているため、取り組んでいるとはいえない。	○	
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの必要性や、鍵を掛けることの弊害は理解しているが、飛び出し事故を受けて、現在は解錠できない状態。	○	
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している			
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている			
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書やヒヤリハットの提出を徹底し、その都度指導を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変に備えてのマニュアルは策定してあるが、実際に訓練を定期的に行っていない。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		○	現在の所、地域の人々への働きかけを行っていないため、今後検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		○	施設がもたらす威圧感には理解しているが、解錠に至るまでの職員教育が行えていないため、ご家族と対策を話し合う以前の状態である。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定時のバイタルサインのチェックの他、排便や飲水状況、臨時検温などを実施し、体調の変化を見逃さないように努めている。また、得られた情報は、申し送りを含め、速やかに情報共有がなされるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者一人ひとりの服薬内容等を把握するよう努めているが、職員全員が把握できている状況ではない。特に投与後の観察が必要な薬剤については、管理者が都度観察の指示を出している。	○	薬の重要性を認識し、その副作用など薬剤による影響を職員全員が把握できるよう指導していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ほぼ全員の排便状況を把握するよう努めており、飲水量や運動量、下剤の必要性など、管理者がその都度指示を出している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者毎に、口腔ケアを実施しているが、毎食後ではない。しかし、口腔内に異常が有った場合は、1週間に1回の歯科往診を行っているため、速やかに対処できるような体制は整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に、食品の形態を変えたり、摂取する時間をずらし、1対1で対応したり、嚥下障害のある方には、ゼリーを用いた水分摂取が行えるように努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員を、保健福祉事務所の行う感染対策の講習会に参加させたり、手洗いの励行を促す掲示を行っている。また、感染症別のマニュアルを策定している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の取扱いには、充分注意を払っているが、調理用具については一般家庭と同様、通常の洗浄と漂白・除菌を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施錠がされているため、親しみやすい環境とは言えない。	○	早期に施錠が解除できるよう、職員教育を行っていききたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭の花壇や、花瓶などに花などを飾ったり、七夕などの飾り付けを行い、出来るだけ季節感を感じていただけるように努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルから、少し離れた場所にソファを設置し、気の合うご利用者同士での会話が出来るように努めている。また、廊下の途中に椅子を置き、ひなたぼっこや場合によってはそこで会話が楽しめるようにしている。	○	難聴のご利用者がいらっしゃるため、テレビの音量が大きくなってしまっている。電子機器の使用などを含め、対応を考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来るだけご家庭で使っていた品物やご家族の写真など、使い慣れていた、思い出の品となるようなものを持ち込んで頂けるよう依頼している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者の意見や反応をみながら、随時温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド周りに、滑り止めのマットを敷いたり、夜間は明るすぎない程度の光が廊下に入るよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示を「お便所」とするなど、出来るだけわかりやすい表示を心がけるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭を、ご利用者の活動できる場所としている。	○	中庭に出るためには、3段程度の階段を使用するため、改善を加えて、安全に外に出られるよう配慮していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)